

投稿

病院での天文普及活動について

嶺重 慎（京都大学基礎物理学研究所）、高梨直紘（東京大学大学院天文学専攻）

1. はじめに

病院に入院している子ども（と大人）を対象に、観望会やスライドショーといった天文普及活動ができないだろうか。

この件について、昨年11月から関東支部会[1]、近畿支部会[2]、tenkyo-ML[3]等の機会を用い、さまざまな方面から議論して頂きました。その後、嶺重は、東京医科歯科大学付属病院の小児科にコンタクトをとり、「天プラ」のメンバー（塚田健さんと高梨）と高橋淳さん（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）と共に、2006年1月30日に病院を訪れて打合せをしてきました。今後の活動の参考になると思い、簡単に報告をします。

2. 病院における活動の一般論

一般論を以下に示します。

- ・活動の主対象となるのは、人の話が聞ける年齢（小学生以上）の、比較的身動きがとれる慢性疾患の子どもたちである。
- ・自由に院内を歩ける子もいるが、感染を避けるため屋外には出るのは難しい。プレールームなど、子どもが集まれる場所がある病院だと、そこでボランティア活動を行うことができる。
- ・ベランダ等があると、そこに望遠鏡を設置し、その画像をケーブルで室内にひっぱってきて屋内で見るといった芸当も可能である。
- ・ストレッチャーに寝たままの子どもが参加するかもしれないが、多くの場合、ベッドを操作して頭を上げることができる。しかし文字通り寝たまま（天井を向いたまま）の子どもも、たまにはいるかもしれない。
- ・ドームを持ち込むことも可能。ただし、点

滴をしている子どももいるので、配慮は必要。

- ・活動は、小学生が対象の場合、30分が限度と心得よ。（歌や劇でも同じ。）

- ・皆が集まる場所には出てこられない子どももいる。その場合、医師の許可を得て、個別に病室でスライドショーなどのイベントを行うことができる。国立天文台で開発した4次元デジタル宇宙ビューワー[4]を用い、病室で実際に子どもたちに操作してもらうことも考えられる。

- ・活動は、医師や看護スタッフが手薄となる週末は避ける。夜間の活動（観望会）も不可能ではないが、十分、時間的余裕をもってお伺いをたて、許可をもらう必要がある。

- ・ボランティア活動といっても、子どもたちの部屋の移動など、医師や看護師の方々にご協力願わないといけないことも多数でてくる。十分時間をかけてプランを練り、病院側と連絡を密にすることが重要である。

3. 留意すべき点

活動にあたり、「病院だから・・・」といって特別な準備があるわけではありません。服装も普段着でOKです。ただし、患者さんの状態を悪化させる事態だけは避けなければなりません。東京医科歯科大学付属病院の場合には、以下の点に注意するよう、教えていただきました。

- ・風邪をひいている人は（軽いものでも）、患者さんの健康管理の観点から参加出来ない。下痢も同様である。

- ・参加者はあらかじめ、はしか、水疱瘡の免疫があるかどうかチェックして報告する。インフルエンザの予防注射、結核のレントゲン

検査も必須である。

・定期的に活動をする場合には、健康診断を毎年受けておく必要がある。またボランティア向けのオリエンテーションへの参加も必須である。

いずれにせよ、病院での活動を考えている諸氏は、病院側としっかりとコミュニケーションをとり、医師の指示に従って準備をしなければなりません。

4. 今後の予定と課題

現在、天プラ（関東）と黄華堂（関西）の皆さんと個人が何人か、活動希望を表明されています。まずは、東京医科歯科大学附属病院の小児科から始めます[5]。ボランティア活動には大変理解があり、こちらの申し出を歓迎していただいています。いずれ、報告をします。

ある程度経験をつんだところで、他の病院や地域（関西）にも活動を広げていきます。例えば、関西では京都大学附属病院[6]が候補でしょう。ちなみに、日本で一番大きい小児科病院は、国立成育医療センター（於世田谷区、旧国立小児病院）です。その他、成育医療センター／子供医療センターといった名称のこども病院が全国各地にあります[7]。

5. まとめとお願い

病院における天文普及活動には、天文普及という本来の目的に加えて、もう一つ大きな意味があると私は思っています。それは、「私たちはボランティア活動を、単なる無報酬の奉仕活動とは考えず、あくまで『行う自己の向上・研鑽・改革のための自由な意志による人間活動』として捉えています。」という、国立成育医療センターのホームページ[8]にあることばによく表れています。

全国に20万人とも言われる入院している子どもは、友達と遊ぶことも、自然に直接触

れることも難しい環境にあります。私たちと一緒に活動しませんか。ご協力頂ける方（グループ）は、嶺重まで以下の情報をお知らせください。

1. 代表者氏名、連絡先（メールアドレス）と参加人数
2. 活動実績（内容や頻度等、簡単に結構です）
3. 活動地域（どの地域までカバーできるか）
4. 病院で希望する活動内容（観望会、出張授業など）
5. その他（抱負や、何でもお気づきの点など）

また、既に様々な活動を実践されているグループには、情報の提供と、その情報のパブリックドメイン化をよろしく願います。

参考文献/ホームページ

- [1] 篠原秀雄、2006、天文教育普及研究会関東支部研究会兼Astro-HS関東地区集会、『天文教育』、1月号、p.28
- [2] 成田直、2006、天文教育普及研究会近畿支部会報告、『天文教育』、1月号、p.31
- [3] 嶺重慎、2006、全ての人に天文教育・天文普及を、『天文教育』、1月号、p.21
- [4] 正式名称は、4次元デジタル宇宙ビューワー“Mitaka”（ミタカ）。ホームページは <http://4d2u.nao.ac.jp/t/index.php>
- [5] ボランティアのホームページ（ふしぎなポケット）は <http://www.tmd.ac.jp/med/ped/volunteer/index.html>
- [6] ボランティアのホームページ（にこにこトマト）は <http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pediatrics/nikoniko.html>
- [7] 病院リストは <http://www.crn.or.jp/~JaCHRI/contents/contents.html>
- [8] <http://www.ncchd.go.jp/childfamily/volunteer/index.html>